

84ゴジラヘッドができるまで



▲まずは原型となる加形のヘッドを修復。村尾氏所有のヘッドは歪みが激しく、歯も欠品していたので、それらを修正し、現存していたパーツから複製した歯を追加した



▲こちらパソコンに取り込まれた下アゴの3Dデータだ

▲スキャン前の下アゴ、表面の凹凸が捉えやすいよう、表面にはペーパーパウダーがかけられている



▲各パーツをツマヨウジなどで仮止めして組み上げた状態



▲削り出されたゴジラの後頭部。ご覧のように出力は数パーツに分けて行っている



▲スキャンされたデータを元に、大型5軸NC加工機(NC7000U)で発泡スチロールが削られていく

3Dプリントより大きなものを造形するのに適している5軸NC加工機を使って500mm立方程度のポリウレタンになると一度の切削だけで表現する事が出来ず、PC上で加工性を加味した分割ラインを設定しての発泡スチロールを切削する事としたんじや。発泡スチロールと言うと軽くて壊れやすいという印象が有りたいぞ。

ゴジラのような凸凹が激しい造形物をデータ化出来るのか？手探りで始めたスキャンングじゃが、影を捨てるのが難しく細かなデータ化は出来なかつたのは残念じゃった。歯の表現など、尖った物をスキャンする事も困難で、今後の精度向上に期待したいぞ。

またまた高難なこの機械達、簡単に使う事が出来ないんじやが、探していたころハミルトン株式会社で導入したばかりの機械を使って限界に挑戦する事となった。

怪獣模型に関しては14年間の沈黙を破ったの復活じゃやぞ。今回の獲物は、1984年製作の84ゴジラヘッドを復元する事じゃ。このために当時の雛型ヘッドをストックの中から掘り起こし表皮の復元を行なうところから始まったんじや。この当時は、版權についてまだおらかな時代であった事と、模型を中心としたイベントが始まったばかりで、お祭りの緑日のような楽しさの中で映画会社の参加もあったりと、今から考えると夢のような時代じゃった。そんな中で、抜きっぱなしのピオラントヘッドや歪んだ雛型ヘッドが、ごく少数販売された事もあったが、当時は入手する事が出来ず悔しい思いをしたもんじや。後年になってオークションで入手した雛型ヘッドには、歯が無く歪んだ顔じゃったんじやが怪獣作家の篠原氏のコレクションから歯を複製してもらい30年ぶりに君返ったぞ。この84年ゴジラは、初代ゴジラの意匠を復元させ全身の原型を作りスタンダード化させる事となる。歴代ゴジラの中でもターニングポイントとなる造形じゃ。この後の平成ゴジラは、この時のボディの型を用いて作られている事は、HJスペースバルムック本「ゴジラvsビオランテ コンプリクション」にも書かれておる、興味のある諸氏は読んでほしいぞ。

さて、今回のヘッド復元企画じゃが着ぐるみの復元というより雛型を忠実にスーツサイズにしたらどんなにカッコいいんじやろうかと考え、近年発達してきたレーザースキャンや3Dプリンターを使えないじやろうかと考えたんじや。

怪獣模型に関しては14年間の沈黙を破ったの復活じゃやぞ。今回の獲物は、1984年製作の84ゴジラヘッドを復元する事じゃ。このために当時の雛型ヘッドをストックの中から掘り起こし表皮の復元を行なうところから始まったんじや。この当時は、版權についてまだおらかな時代であった事と、模型を中心としたイベントが始まったばかりで、お祭りの緑日のような楽しさの中で映画会社の参加もあったりと、今から考えると夢のような時代じゃった。そんな中で、抜きっぱなしのピオラントヘッドや歪んだ雛型ヘッドが、ごく少数販売された事もあったが、当時は入手する事が出来ず悔しい思いをしたもんじや。後年になってオークションで入手した雛型ヘッドには、歯が無く歪んだ顔じゃったんじやが怪獣作家の篠原氏のコレクションから歯を複製してもらい30年ぶりに君返ったぞ。この84年ゴジラは、初代ゴジラの意匠を復元させ全身の原型を作りスタンダード化させる事となる。歴代ゴジラの中でもターニングポイントとなる造形じゃ。この後の平成ゴジラは、この時のボディの型を用いて作られている事は、HJスペースバルムック本「ゴジラvsビオランテ コンプリクション」にも書かれておる、興味のある諸氏は読んでほしいぞ。

よおっ、読者諸君元気かな？

NONスケールスクラッチビルド
84ゴジラヘッド
製作/村尾ゴジラ 男/ハミルトン株式会社